

S&Uだより

2022年5月10日

(株) マルジン

福井 TEL 0778-27-7200 FAX0778-27-7201

名古屋 TEL 0586-81-1895 FAX0586-81-1896

新潟 TEL 0258-94-5772 FAX0258-94-5773

福島 TEL024-983-3970 FAX024-983-3971

safety & useful 発行 No294

4月23日、北海道の知床半島の沖合で乗客・乗員26人を乗せた観光船「KAZU 1」が(19トン)沈没した事故は、これまでに乗客14人が死亡、12人が行方不明になっています。

5月になった 現在も第1管区海上保安本部と海上自衛隊は、「カシュニの滝」付近の海底で沈没しているのが見つかった船体の中に取り残された人がいないか確認するため、水中カメラを備えた無人機を遠隔操作して調べていて、1日は新たに警察の水中カメラも使って海中での捜索が行われています。

沈んだ船を引き上げればいいのに・・・と素人は思いますが・・・

海上保安庁によると、カズワンは知床岬から南西約14キロ、カシュニの滝の沖合の水深約120メートルで見つかったようです。沈んだ船をどう引き揚げるのかという関係者の話では、水深100メートル程度までであれば、特殊な潜水用具を着たダイバーが専用の潜水装置を使って潜り、船体にワイヤを取り付け、大型のクレーン船で引き揚げる方法が一般的ですが、水深100メートルを超える場合は、水中ロボットを使って、ワイヤを取り付けるそうです。

まず、船体の周辺などの様子を探る撮影ロボットで状況確認して、船体の窓などを切断する作業ロボットを使って船体内部に入り込める状態にすることになるらしく、その後沈んだ物体を引き揚げるサルベージ作業に関しては専門の業者に任せることになるとのことです。特殊なスーツを装着したダイバーが沈んだ船にワイヤを取り付け、サルベージ専用の船に積んだクレーンで引き揚げる、この際のダイバーの作業も海の穏やかな日のうち3～4時間ほどが限界だそうです。作業は専門のダイバーが行うが、それでも1回の作業は30分前後に制限されるかもしれないとのこと。

「船体の引き揚げ作業の費用は莫大な資金が必要。その経費は通常であれば船舶保険に入っていれば、保険金での負担になるだろうが、船主の知床遊覧船も資金捻出しなければならぬのではないかと」と話し「水深100メートルより深い事案なので、いったい何億円になるのか。正直、見当はつきません」と話しているとのことです、今現在 国が一部負担せざるを得ないとの報道もあります。国土交通省によると「KAZU I」が出航の3日前に受けた日本小型船舶機構による検査で、衛星電話から携帯電話に通信手段を変更して申請し、検査を通過。この際、豊田徳幸船長に陸上との通信が可能か尋ねたところ「つながる」と答えたため、検査を通過したということです。

しかし、その後、豊田船長は「自分のつながらない」とも話していたということで、国の検査、安全確認のあり方も問われる事態になっています。今回の事故の海上保安庁への連絡は 乗客の携帯電話からだったそうです。

世界遺産・知床の雄大な自然を堪能できると銘打ち、人気が高い観光船ツアー。今回事故を起こした「KAZU I (カズワン)」の運航会社「知床遊覧船」も「船でしか行けない秘境」とうたい、高確率でヒグマに出合えると紹介し、カズワンに乗船経験のある男性は陸地の岸壁にかなり接近する場面もあったと振り返り、安全性への懸念を漏らしています。ヒグマの出没ポイントでは、船長が見どころの説明を交えながら、船を陸地に近づける動きを見せた。水深が深い場所では、岸壁ギリギリまで接近することもあり、船長がこの海を知り尽くしていると信じていたので、不安はなかったと話しています。船は古いけれど サービスがよかったようで お客様が喜んでくれるようなら 多少無理をしても要望を聞いていたという話もあります。遠く 北海道まで旅行に訪れ 楽しいクルーズを待ち望んで波止場についた途端「本日は出港しません」と張り紙があったら それはそれは残念な事でしょう。「大丈夫です。うちは出しますよ！」という船があって、何事もなく戻れたら 乗客も「波があって揺れたけど スリル満点で面白かったね！」と 皆大満足だったのかもしれない。

「船を出してしまった。・何かの原因で浸水した。・船長の携帯電話が通じない海域だった。・本来なら二艘で並走するはずが 新規採用予定の船長はGWからだったので1艘での出港だった。・会社の安全管理がずさんだった。等々」いろいろな条件が重なり大惨事となってしまったようです。自分たちの仕事に置き換えても決して他人事では無い気がいたします。お客様の要望、自分たちの都合、仕事のスケジュールが詰まった場合の 天候等の決行判断・・・不特定多数の人が利用する観光モルルールではないので26人も人が被害にあうことはないでしょうが 一人一人の命は代えがたく尊いものです。皆が他人事と思わず判断を誤らないような 仕組み作りを常に考えていきたいものです。

マルジン 5月のカレンダー							～ご依頼はお早めに～
日	月	火	水	木	金	土	
1	2	7	4	5	6	7	連休明けより仕事が非常に混み合っております。 ご依頼はお早めにお問い合わせいたします。
8	9	10	11	12	13	14	
15	16	17	18	19	20	21	
22	23	24	25	26	27	28	
29	30	31					

2022年5月第294回は～安全なモノレールの取扱い～について

安全とは「作中にケガをしない・ケガをさせない」事です。その基本は、作業する一人一人が「ケガをすると大変だ」「かけがえのない命を大切にしよう」という気持ちをしっかり持つことです。そのため「約束(ルール)を守る」こと、そして「現場で働く一人一人がお互い助け合う」事が最も重要なことです。法律や会社が決めたルール(約束事)は自分自身のため、家族のため、仲間の為に必ず守るようにしましょう。モノレールの使用上のルールも守って 能率よく安全な良い仕事ができますように。私達も気を付けてまいります！！

※モノレール使用上の注意

1. モノレールを使用する際は、モノレール技士が行う取扱主任者講習または取扱主任者が行う講習を受講してください。取扱説明書を読み、理解して正しく使用してください。
2. 専用の乗用台車以外には絶対に乗車しないでください。
3. 最大積載量、最大積載高、乗車定員を厳守してください。
4. 安全な作業を行うために、作業前点検を行ってください。
5. エンジンがかけたまま燃料やオイルを補給しないでください。必ずエンジンが十分に冷えた状態で行ってください。やけどや火災の原因になります。
6. 定期的(1ヶ月毎)に駆動輪オイルを滴下してください。
7. だぶついた上着、ズボンで乗車しないでください。特に安全帯を装着しているときはロープが機械に巻き込まれないよう十分注意してください。
8. 走行中は乗用台車から手足などを出さないでください。
9. 荷物台車に荷物を積むときは、ロープなどでしっかり荷締めを行ってください。また荷台の幅員からはみ出さないようにしてください。
10. 牽引車を停止後、前後レバーをニュートラルの状態にしたままにしないでください。傾斜地でモノレールが下降し、大変危険です。
11. 降坂の際もエンジンをかけた状態で運転してください。ニュートラルで降坂するとブレーキが過熱し、故障の原因になります。
12. 走行中や点検中、異常を感じたら絶対に使用しないでください。走行中の場合はただちに機械を停止してください。
★ただちにサービス店(マルジン)に連絡して、点検整備を実施してください。
13. 乗用台車に装備されている非常用駐停車ブレーキは、非常時のみ使用してください。(非常時用のため、急停車しますので故障の原因になります。)
14. 分岐ポイントを切り替えた後は必ず、曲がりレール取付ネジをしっかりと締め付けてください。

※モノレールの保守管理に関する事項

- ・安全な作業を行うために、毎日作業前点検を行ってください。
- ・点検を行う際は必ず、レールが水平な場所で行ってください。

<エンジンの点検について>

1. 燃料はあるか？
2. エンジンオイルは規定量あるか？
3. バッテリー液は規定量あるか？
4. 燃料ホースに亀裂はないか？各部からの燃料漏れはないか？
5. 始動状態は良好か？

<牽引車の点検について>

1. 各部のネジはゆるんでないか？
2. ミッションオイルは規定量あるか？
3. 異常に横揺れしたり、傾いたりしていないか？
4. 牽引車と台車(乗用台車および荷物台車)がしっかりと主連結器と副連結ワイヤー取付部のジャックルネジはゆるんでないか？
5. 走行停止レバー及びストップレバーが曲がったり、変形していないか？
6. 停止ブレーキは完全にきくか？

<乗用台車の点検について>

1. 各部のネジはゆるんでないか？
2. ミッションオイルは規定量あるか？
3. 異常に横揺れしたり、傾いたりしていないか？
4. 非常用駐停車ブレーキを停止にした際、エンジンが停止するか？
5. 無理なく座席がスイングするか？(OP-1-50MAのみ)

<荷物台車の点検について>

1. 各部のネジはゆるんでないか？
2. 異常に横揺れしたり、傾いたりしていないか？
3. フレームは変形していないか？

<レールの点検について>

1. レール支持ボルトはゆるんでいないか？支柱が軌条上に飛び出していると機械と衝突し、大変危険です。
2. 各部のネジ、ナットはゆるんでいないか？
3. レール、ラック部に異常な摩耗・変形・腐食はないか？
4. ストッパー受けは正常に作動するか？
5. 支持金具、沈下防止板に割れや変形はないか？
6. レールが異常に傾いたり、横揺れしたりしていないか？
7. ポイントの切り替えはスムーズか？また曲がりレール取付ネジはしっかりと締め付けているか？

※ 安全取扱説明書を常に携帯し、正しい手順で点検を行ってください。

※ 点検時は始業点検日報を使用してください。

※ 1ヶ月に一度は必ず、販売店、レンタル業者(モノレール技士)による定期点検を行ってください。